

カッターズキャンプ実施報告書

- 【趣 旨】 日常生活で味わうことのできない生活環境の中で、自然を身近に体感させる。また、多くの人と共に生活する中で、集団生活の在り方や公衆道徳について望ましい体験をし、積極性や思いやりのある心を育てる。
- 【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家
- 【後 援】 広島県教育委員会，広島市教育委員会，呉市教育委員会，江田島市教育委員会，坂町教育委員会，府中町教育委員会，海田町教育委員会，東広島市教育委員会
- 【期 日】 (1) 春キャンプ 平成 30 年 5 月 26 日 (土) ～27 日 (日) (1 泊 2 日)
(2) 夏キャンプ 平成 30 年 8 月 7 日 (火) ～10 日 (金) (3 泊 4 日)
(3) 秋キャンプ 平成 30 年 10 月 6 日 (土) ～7 日 (日) (1 泊 2 日)
※台風接近のため秋キャンプは中止
(4) 冬キャンプ 平成 30 年 12 月 22 日 (土) ～23 日 (日) (1 泊 2 日)
- 【会 場】 国立江田島青少年交流の家
- 【対 象】 小学校 4 年生から中学校 3 年生
- 【参加者数】 (1) 春キャンプ 66 名
(2) 夏キャンプ 99 名
(3) 秋キャンプ ※台風接近のため中止
(4) 冬キャンプ 80 名 延べ 245 名
- 【企画・運営のポイント】
- (1) 青年ボランティアグループ「カッターズ」が毎週 2 回のミーティングを行い、事前キャンプにおいて準備及びリスクマネジメントを行う。また、担当企画指導専門職が、各キャンプの事前、事後のミーティングに参加して、活動内容に対する指導助言をする。そして、「カッターズ」が自主的に行う事前キャンプで出た課題を改善し、本番のキャンプ運営に反映させる。
 - (2) 年 4 回開催し、当交流の家が持つ豊かな自然環境を生かし、春・夏・秋・冬のそれぞれの季節感および自然の良さを感じることができる活動プログラムを組む。
 - (3) 参加者の積極性や主体性、他者に対する思いやりを引き出すために、異学年及び異年齢や男女のバランスのを考慮した班編成を行う。また、参加する子供それぞれに役割が生まれ、協力できるような活動プログラムを計画する。
 - (4) 参加者が興味・関心をもてるように開会セレモニーで始まり、多彩な活動プログラムを体験した後、閉会セレモニーでキャンプを締めくくるストーリー性のあるキャンプ構成にする。また、閉会セレモニーでは、参加者の活動中の様子をスライドショーで流し、参加者全員でキャンプの振り返りを共有できる場面を設ける。
 - (5) それぞれのキャンプ実施後は、スタッフと担当企画指導専門職でキャンプの内容を振り返り、課題と成果の分析をしっかりと行い、それらを反映させながら次キャンプの計画立案を行い、ねらいと主旨に沿った活動計画の立案をしていく。

【活動の実際】

(1) 春キャンプ

平成 30 年 5 月 26 日 (土) ～27 日 (日) (1泊2日)

5月26日(土)	5月27日(日)
<ul style="list-style-type: none"> ・開会セレモニー ・スポーツ ・野外炊事 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーリング ・閉会セレモニー

- ・スポーツでは、班での作戦タイムや練習時間を設けることで、班での話し合いや協力して活動し、班の一体感を生むことができた。また、活動の中に協力を必然的に生むよう配慮し、事後の活動に反映させるようにした。
- ・野外炊事では、協力して「ドライカレー」「フルーツポンチ」を作った。日頃家で調理をあまりしていない参加者も、班のメンバーやスタッフの助けを借りながら前向きに調理に取り組み、班での役割分担も生まれ、進んで活動することができた。
- ・オリエンテーリングでは、班のメンバーで協力し勝利を目指して楽しむことができた。自然の中で活動し、班の連携と一体感がより深まる活動となった。



スポーツ



野外炊事



オリエンテーリング

(2) 夏キャンプ

平成 30 年 8 月 7 日 (火) ～10 日 (金) (3泊4日)

8月7日(火)	8月8日(水)	8月9日(木)	8月10日(金)
<ul style="list-style-type: none"> ・開会セレモニー ・クラフト ・野外炊事 	<ul style="list-style-type: none"> ・海水浴 ・炊き出し昼食 ・歌カプラ 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ ・オリエンテーリング ・ファイアーのつどい 	<ul style="list-style-type: none"> ・閉会セレモニー

- ・1日目は、クラフトで竹コップや風鈴を作り、野外炊事でギョーザと炊き込みご飯を作った。初めて出会った友達と協力して活動するプログラムを実施することで、班の中を深めることを狙った。活動中は、互いに助け合いながら活動し、協力する姿が多く見られた。
- ・2日目は、浜辺でのレクリエーションも合わせて実施する海水浴とカヌー。江田島の海を満喫し海の魅力を感じるひと時となった。夜には班のみんなで歌カプラも行い、互いの中がより深まる一日となった。
- ・3日目は、みんなで体を動かすスポーツの爽快さ、自然の中で行うオリエンテーリングとめいっぱい体を動かし楽しんだ。夜のファイアーのつどいでは、一同にキャンプファイアーを囲み、仲間との友情や自分の成長を振り返るひと時となった。
- ・4日目の閉会セレモニーでは、キャンプ全般を参加者とスタッフが一緒になって振り返り、4日間のキャンプを感動のもとに締めくくる時間となった。



海水浴



歌カプラ



ファイアーのつどい

(3) 秋キャンプ

平成30年10月6日(土)～7日(日) (1泊2日)

※台風接近のため中止

(4) 冬キャンプ

平成30年12月22日(土)～23日(日) (1泊2日)

12月22日(土)	12月23日(日)
<ul style="list-style-type: none">・開会セレモニー・レクリエーションスポーツ・クラフト・キャンドルのつどい	<ul style="list-style-type: none">・オリエンテーリング登山・閉会セレモニー

- ・レクリエーションスポーツでは、スタッフが趣向を凝らしたレクリエーションやスポーツに取り組み、和やかな雰囲気のもと参加者同士の仲を深めた。クラフトでは、クリスマスにちなんだ、ソックスとまつぼっくりツリーを作り、季節感をしっかりと味わうことのできるプログラムであった。
- ・キャンドルのつどいでは、真っ暗な体育館の中に幻想的なキャンドルのともし火を一同に囲み、レクリエーションやゲームを楽しんだ。最後には、一人一人が、自分を支えてくれている人たちやスタッフへ感謝の気持ちを述べる場面を設けた。キャンプで出来た友達やスタッフへの気持ちを聞きながら感動的な一場面となった。
- ・オリエンテーリング登山では、本所にある水晶山の登山とオリエンテーリングを合わせて行うという趣向を凝らした試みとなった。事前のリスクマネジメントや円滑なプログラムの遂行等、大変さはあったが、参加者全員が安全に楽しむことのできる活動となった。



レクリエーションスポーツ



キャンドルのつどい



オリエンテーリング登山

【成果と普及】

- (1) 事前のミーティング及び事前キャンプにおいて、課題の把握や参加者のニーズを分析することで、より教育効果が高く参加者のニーズに応えたキャンプを実施することができた。「カッターズ」の代表と担当企画指導専門職で連携をより密にすることで、互いに共通理解を持つことができ、企画・運営に対する的確な助言をすることができた。
- (2) 各キャンプでの活動プログラムにおいて、参加者が互いに協力して取り組む場面や自分で他者のことを考えて活動する場面を意識して取り入れた。また、江田島の自然を満喫できるプログラム内容を実施することで、参加者の興味や関心をひくとともに、日常生活と異なる環境の中で新しい経験ができるキャンプとなった。
- (3) キャンプのねらいを明確にし、参加者のニーズ分析を丁寧に行った。活動プログラムにおいても、それぞれの季節感を感じ当交流の家の特色を生かした活動プログラムを取り入れることで、参加者及び保護者のキャンプに関する満足度も高いものとなった。
(参加者満足度：「カッターズキャンプはどうでしたか」)
 - ・満足：92% ・やや満足：6% ・やや不満：2% ・不満：0%(保護者満足度「お子様から聞くキャンプの内容はよかったですと思われますか」)
 - ・満足：89% ・やや満足：11% ・やや不満：0% ・不満：0%
- (4) 参加者のアンケートへの記述に「新しい友達と協力して活動ができ、貴重な体験ができた」とあるように、異年齢の集団で寝食を共にして活動をすることで、互いを思いやる気持ちや積極的に活動しようとする態度が養われた。また、スタッフの姿勢にも変化が見られ、より積極的に参加者に関わり、キャンプのねらいを深く認識した上でキャンプ全体のプログラミングを行うようになり、スタッフとしての自覚もより強いものとなった。

- (5) ストーリー性のあるキャンプ構成を心掛け、参加者が互いの仲を深めることのできる活動プログラムの実施を行った。そのことにより、参加者が主体的にキャンプに参加し、プログラムを通して友情を深め、より深い関わり合いの上で協力して活動する姿勢の育成に繋がった。参加者とスタッフの間の親近感も生まれ、キャンプの閉会セレモニーでは、キャンプの振り返りを共有する場を設けることで、感動とキャンプに対する愛着感をもって事業を締めくくることができた。
- (6) 本年度より、より積極的な広報活動に取り組んだ。広報先の幅を広げたり、他の企画指導専門職とも連携し、他事業の参加者への開催要項の配布を行ったりした。そのことで、キャンプへの参加申込者が大幅に増加し、初めての申込者も増大した。
- (キャンプ参加申込者)
- ・春：80名 ・夏：134名 秋：134名 冬：130名
- (初キャンプ参加申込者)
- ・春：22名 ・夏：59名 ・秋：51名 冬：58名
- (7) スタッフに自分も指導者の一員であるという自覚が芽生え、指導の仕方によって参加者への教育的効果も大きく違ってくるという考えを持つようになった。本所でボランティア対象の研修やボランティアに関わる研修に参加してみたいなど、ボランティアが持つ意義について学び活動に反映させたいという思考が生まれている。そのような面から見ても、より質の高いキャンプを実施しようとする意欲が芽生えてきている。

【今後の課題】

- (1) 「カッターズ」のスタッフにより一層、自分たちが指導者の一員であるという自覚を持たせることが求められる。事業のねらいや目的を「カッターズ」と担当企画指導専門職で共有し、ねらに迫る活動プログラムの構築をしていく。
- (2) キャンプを運営するスタッフとして、理論や考え方を学ぶ場の設置を考える必要がある。担当専門職がミーティングに赴き指導は行っているが、きめ細やかな指導を行う場の設定が必要である。
- (3) 異年齢の参加者がいるキャンプの特性を生かし、中学生の参加者にリーダー的存在になる場を設けたり、参加者それぞれにキャンプの中で役割を与えたりするなど、より主体的にキャンプに参加する場の設定をしていくことが必要である。参加者同士の関わりを効果的に生み出し、キャンプの狙いに迫る活動プログラムを構築していくことが今後より深く求められる。